

3 海女の不思議



どうしてアマは女性？

今日ではアマといえば女性の海女だと思われていますし、たしかに鳥羽・志摩地方では海女が圧倒的に多いようです。

では、アマはどうして「女」か？ 3つの代表的な説があります。

- ①女性より男性と比べて、皮下脂肪が多く、寒さに長く耐えられるという説。
- ②漁業が発達するにしたがって、男は次第に大量な漁獲を求めて、沖の漁場へ出て行くようになり、磯でする潜水漁業は自然に女の海女になったという説。
- ③朝廷や神宮へ神饌としてアワビを奉る神聖な役割は、とくに女性が果たしていたという説。

あなたはどれだと思いますか？

女性が漁業に従事するのは、日本では珍しいことです。アマの漁法や習慣には、伝統的な海の民の生活を想わせるものも少なくありません。

海人・海士・海女・潜女・蜆婦？

古い時代のアマが女性であったのか男性であったのか、女性のアマがすでに平安時代にいたことは文書にもありますが、男性アマとどれぐらいの割合であったかは、わかっていません。

古い文献には、アマを表す文字がたくさんあります。海士、白水郎は男性でしょうが、海人はいずれか解りません。潜女、潜婦ははっきりと女性でしょう。明治初期には蜆婦の文字も使われていますが、いまふつうに使われる「海女」と漢字で表現されるようになるのは、明治期になってからのようです。

海女はどこにいるの？

鳥羽・志摩地方をはじめとして、千葉県南房総、静岡県伊豆、徳島県阿部、山口県大浦、福岡県鐘崎、長崎県対馬の曲、福井県雄島、石川県舳倉島などが、アマ漁の盛んなところとして知られています。

世界的にみると、海士は中国南部やマレー、太平洋地域などに多くいますが、海女は韓国の済州島にいるほかには、ほとんどみられません。済州島の海女は、以前は朝鮮半島沿岸はもちろん、遼東半島、沿海州、そして対馬や日本海沿岸にも進出しており、その技術は日本の海女と変わるところがありません。

志摩半島の海女は、早くから他地へ出稼ぎに出ました。近くは熊野地方、ほかに伊豆や北海道の利尻島、一時朝鮮半島へも行きました。

